

絵本を読む人、つくる人、子どもに手渡す人……
ページをめくる大人の目を開かせ、刺激する、渾身の絵本論

絵本とは何か

起源から表現の可能性まで

松本 猛

Takeshi Matsumoto



大人にこそ、知ってほしい 絵本の魅力

あらゆる世代の人が文化・芸術を味わうことのできる絵本
驚きに満ちた表現の世界をいっしょに旅しませんか

絵を読むとは？ 絵とテキストの関係とは？
目からうろこの絵本論！

2025年
2/27
刊行

A5判並製・240ページ
定価 = 本体2,500円+税
ISBN 978-4-00-022319-5

岩波書店





本書は、絵本に五十年余り関わってきた人生の一つの区切りとして、絵本についての考えをまとめたものです。私の絵本観は、母ちひろの影響はもちろんありますが、高校時代からちひろの絵本制作の現場に参加させてくれた至光社の武市八十雄氏から学んだものも少なくありません。ちひろ美術館をつくってからは、福音館書店の松居直氏にも教えを乞い、視野を広げることができました。『絵本とは何か』というタイトルは、同名の著書を書かれた松居氏へのオマージュでもあります。絵本作家の方々からたくさん学ばせていただきましたが、とくに瀬川康男氏、長新太氏、安野光雅氏には個人的にも多くを教えていただきました。

「あとがき」より

●● 本書の内容

第1章 絵本とは何か

- 絵本は子どもの本？
- 絵本はどのような表現ジャンルか

第2章 絵本の表現

- 絵本の絵を読む
- 絵とテキストの関係
- 画面展開の技術と効果
- 名作の分析

第3章 絵本の歴史

- 絵画と物語
- 絵本の源流 — 写本の時代
- 絵本の萌芽 — 版本の時代
- 現代絵本の誕生と展開
- 現代絵本の発展

第4章 絵本の可能性

- 絵本は何を語れるか — テーマの広がり
- これからの絵本

あとがき／引用・参考文献／本書で取り上げた主な絵本

松本 猛

1951年東京生まれ。美術・絵本評論家、作家、横浜美術大学客員教授、ちひろ美術館常任顧問、美術評論家連盟会員、日本ペンクラブ会員。1977年にいわさきちひろ絵本美術館（現・ちひろ美術館・東京）、97年に安曇野ちひろ美術館を設立。同館館長、長野県信濃美術館・東山魁夷館（現・長野県立美術館）館長、絵本学会会長を歴任。著書に『いわさきちひろ 子どもへの愛に生きて』（講談社）、『ちひろ美術館の窓から』（かもが出版）、『安曇野ちひろ美術館をつくったわけ』（新日本出版社）、『戦火のなかの子どもたち』物語』（岩崎書店）、絵本に『白い馬』（東山魁夷 絵、講談社）、『ふくしまからきた子』（松本春野 絵、岩崎書店）など多数。

